

指定管理者制度導入施設の管理運営に関する評価票(評価対象年度:令和5年度)

施設の名称	宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター
指定管理者の名称	(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団
施設所管部課(室)	環境生活部 自然保護課

1. 当該施設の管理形態の推移【施設所管課記入】

期間	管理形態	指定管理者(管理受託者)の名称	摘要
平成26年 4月 ~ 平成31年 3月	指定管理	(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団	
平成31年 4月 ~ 令和 6年 3月	指定管理	(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団	
令和 6年 4月 ~ 令和11年 3月	指定管理	(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団	

2. 現指定管理者の概要【施設所管課記入】

指定管理者の名称	名称	公益財団法人宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団
	所在地	栗原市若柳字上畑岡敷味17番地の2
指定期間	令和 6年 4月 1日 ~ 令和11年 3月31日 (5か年)	
募集方法	<input type="checkbox"/> 公募 <input checked="" type="checkbox"/> 非公募	

3. 施設の概要【施設所管課記入】

施設の名称	宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター	
所在地	栗原市若柳字上畑岡敷味17番地の2	
設置年月	平成 3年 1月	
根拠条例等	サンクチュアリセンター条例	
設置目的	伊豆沼・内沼を調査・研究し保全対策を確立し、人間と野生動植物とが共存する優れた自然環境としてのサンクチュアリ(聖域)を創造するとともに県民の自然保護思想の高揚と自然と調和した活力ある地域づくりを推進するため設置されました。	
施設の内容	敷地面積	3,850 m ²
	構造	鉄筋コンクリート造り 2階建て
	内容	1階 829.87m ² (事務室、資料室、実験室、研修室、ボランティアルーム) 2階 563.62m ² (会議室、展示室、軽食喫茶室、観察展望室)
開館(所)日	◇ 月曜日(休日を除く)を除く日 ◇ 休日の翌日(日曜日、土曜日、1月2日を除く。)を除く日 ◇ 12月29日から12月31日を除く日	
開館(所)時間	午前9時00分 ~ 午後4時30分	
指定管理者が行う業務の範囲	1 宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター管理業務 ①建物等の管理 ②物品の使用及び管理 ③施設の共用 ④入館の拒否等 ⑤損傷等の届け出 ⑥展示物等の管理、保全及び維持管理 ⑦事故防止と発生時の処理 ⑧再委託業務の管理 ⑨施設の管理運営に関する環境配慮⑩事業報告 2 伊豆沼・内沼周辺地域維持管理及び整備業務 ①水生植物園の維持管理及び整備 ②買上地(県有地)の維持管理及び整備 ③ハス田の維持管理 ④観察路の維持管理及び整備	
利用料金制	採用の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
	利用料金の名称	

4. 施設利用実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和5年度) (A)	前 年 度 (令和4年度) (B)	評価対象年度 (令和5年度) (C)		
開館(所)日数	300 日	303 日	306 日	102.0%	101.0%
延べ利用者数	30,000 人	29,915 人	33,967 人	113.2%	113.5%

(2) 延べ利用者数の内訳

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和5年度) (A)	前 年 度 (令和4年度) (B)	評価対象年度 (令和5年度) (C)		
	30,000 人	29,915 人	33,967 人	113.2%	113.5%
	人	人	人		
	人	人	人		
	人	人	人		
	人	人	人		
合 計	30,000 人	29,915 人	33,967 人	113.2%	113.5%

5. 管理運営収支実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 収入 (単位:千円、%)

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和5年度) (A)	前 年 度 (令和4年度) (B)	評価対象年度 (令和5年度) (C)		
県指定管理料	30,513	42,029	31,738	104.0%	75.5%
利用料金収入					
その他					
収入計 (a)	30,513	42,029	31,738	104.0%	75.5%

(2) 支出

人件費	18,888	20,373	18,940	100.3%	93.0%
施設管理費	12,849	21,230	11,976	93.2%	56.4%
事業運営費					
その他					
支出計 (b)	31,737	41,603	30,916	97.4%	74.3%

(3) 収支

収 支 (c)=(a)-(b)	-1,224	426	822	-	193.0%
前期繰越収支差額					
次期繰越収支差額					

6. 評価対象年度(令和5年度)の管理運営評価【指定管理者・施設所管課記入】

項目	事業実績 【指定管理者記入】		指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】		
				評価		評価	
①管理運営体制	指定管理者として、「管理運営業務仕様書」に基づき、施設の有効活用を図るとともに、破損箇所等の早期発見と保守に努め、経費節減等も図りながら、適切に保全・管理した。		運営に関しては、少ない人数で総合的施策の推進と教育的効果の向上を図りながら、施設備品の適切な管理と利用入館者への接客サービスに意を用い、自然保護・動物愛護思想普及に相乗の効果があがるよう運営管理を行った。		A	施設管理及び各種事業等に職員が鋭意取り組んでおり、適正な管理運営がなされている。	A
人員体制	正規	4人	非正規	4人			
②施設・設備の維持管理業務の実施	1 日常的に施設及び設備関係、展示品の見回り点検を行い、破損箇所や不具合の早期発見に努めた。 2 施設管理に関する法令を遵守し、清掃業務・消防設備保守点検・空調設備保守点検・重油タンク清掃業務・貯水槽清掃業務・エレベーター保守点検・機械警備業務については、指名競争入札により委託業者を選定し、適切な管理の下、経費節減に努		法令を遵守し定められた点検・検査を行うとともに、職員が常時、建物内及び敷地内を巡回し、盗難、汚損及びゴミの不法投棄等の防止を行った。		A	法令に従い管理施設の保守点検がなされている。また、管内の展示物や設備機器についても適正に管理されており、管内の清掃も行き届いている。 施設の異常などが見られた際は速やかに連絡を行っており、連携が取れている。	A
③運営業務(ソフト事業等)の実施	別記1のとおり		各研究員が研究内容をシンポジウム及び学会で発表している事により、沼の保全対策は、全国から注目されている。		S	各研究員が、伊豆沼、内沼に生息・生育する鳥類、魚類、水生植物等に関する研究を鋭意行っており、学会等においてその成果を発表するなど積極的に情報発信をしている。特にこうした研究成果を基とした沼の保全対策は全国からも高い評価を受けている。	S
④自主事業の実施	別記2のとおり		自主事業は、調査・研究の最新の成果を反映させていることから、参加者から好評を得ており、リピーターが多く参加している。		S	伊豆沼・内沼の自然フォトコンテストは、33回と回を重ね、伊豆沼・内沼の自然の素晴らしさと、自然保護の重要性を広く伝えてきている。また、様々な自然体験講座を開催し、自然保護思想の普及に努めている。	S
⑤利用者サービスの向上	入館者のニーズに出来るべく、館内にフリーWiFiを設置、パンフレットを独自で作成し配布を行い好評を得ている。情報の発信は、ホームページ、伊豆沼・内沼サンクチュアリセンターニュースの毎月発行、さらにはマスコミなどを通じ、水鳥やブラックバス等の情報ははじめ調査・研究などを積極的に情報発信している。 研修室は、管理運営に支障のない限り伊豆沼・内沼関連の各種会合等に開放し、有効活用を図った。		地元はもとより県内、県外からの多くの方々が来館する。職員が、積極的に来館者への対応を行っており、ニーズを的確に把握しながら、サービスの向上に努めている。		A	インターネットのホームページを活用し、情報が提供されている。また、独自でセンターニュースを毎月発行しているほか、観光客の利便に供するため、観光地図等を取りそろえ提供するなど来客者のニーズに的確に対応している。	A
⑥利用者の苦情、要望等の把握とその反映	館内に設置する「ご意見カード」の意見の内容を分析し、誠実に対応した。接遇にも十分留意しながら対応し、トラブルの未然防止に努めた。施設利用者の利便性と入館者増加に向け、館内展示物の配置を工夫するなど、観葉植物、花鉢を設置し、うるおいのある空間づくりに努めた。		来館者からの意見を参考に、展示物に予算をかけられないため、職員が展示物やパネル等を作成し、沼の四季にあわせた館内展示を工夫している。		A	来館者の意見を大切にし、伊豆沼・内沼の自然の紹介や、研究成果を分かりやすく展示するなど運営に活かしている。	A
⑦安全対策	9月に築館消防署において、職員全員で心肺蘇生の講習会を行った。また、消防法で定められている防火管理者等の有資格者を配置して、職員を対象とした訓練を実施するなど、火災予防について万全な管理に努めた。		消防設備等の点検において不具合等があった場合すぐに修繕を行っている。常に危機的意識を持ち、大きな災害に備えている。		A	消防設備の点検等の安全管理について適正に行われている。また、緊急時の連絡体制も整っている。	A
⑧県民の平等利用	センターの利用及び各種自主事業への参加については、県内、県外を問わず公平平等とし、誰にでも気軽に利用できる様にした。また、調査・研究の成果については、一般にも広く公表し、その成果を社会に還元した。		事業のPR及び調査研究の成果は、県サンクチュアリセンターが展示施設だけではなく、伊豆沼・内沼の環境保全対策及び調査研究機関である事を広く県内外に浸透させつつある。		A	各種の自主事業は、広く周知しており、多くの参加を得ている。また、調査・研究成果は、学会や誌面を通じ広く公表され、その成果は、高い評価を得ている。	A

項目	事業実績 【指定管理者記入】	指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】	
			評価		評価
⑨個人情報の保護	1. 情報公開については、県の情報公開条例は勿論のこと、財団情報公開規程により、適切に対応することになっている。 2. 個人情報保護については、県の個人情報保護条例を遵守し、「伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト」や「自然体験講座」、その他センターで得られた個人情報は、個人の権利利益の侵害の防止を図るため、慎重かつ適正に取り扱った。	令和5年度の情報公開の要請はなし。	A	実施事業で得られた個人情報は、適正に取り扱われている。	A
⑩利用実績	上記「4. 施設利用実績」とおり	上半期の入館者数は、4月から7月まで昨年度を上回った。特に8月は昨年7月の増水でハスが全滅し回復が十分でないにもかかわらず、昨年度より1,335人増となるなど上半期全体では昨年度より2,441人の増加となった。 また、下半期は10月、12月に若干減少したものの全体的に増加となり、年間で4,052人増の昨年入館者数の114%となった。	A	入館者が昨年度と比較して4,052人増加、開館日数306日、1日の平均入館者数が約111人は、評価が高い。	A
⑪収支実績	上記「5. 施設利用実績」とおり	経費削減を実施し、予算の範囲内での執行を行った。	A	限られた予算の中で、各事業が適正に執行されている。また、協賛企業からの支援を有効に活用し事業に取り組んでいる。	A
⑫その他の取組	絵画展の開催、民間企業が沼周辺で行うボランティア活動に協力を行い、自然保護思想の普及活動にも力を入れた。また、学校や各種団体から依頼された講師派遣・自然観察会や出前講座などの実施に積極的に対応した。	地域に密着した事業を展開するため、受託事業以外の取り組みも、重要視される。近年、環境への関心が高まってきており、小中学校・企業等からも伊豆沼・内沼出前講座の依頼があり、環境をテーマとした講話を行っている。今後も地元との連携を密にし、事業を推進したい。	S	学校・団体・民間企業など様々な団体と連携した事業が積極的に進められており、重要な役割を担っている。	S
総合評価		サンクチュアリセンターは展示施設の他、調査・研究及び沼の保全活動の拠点として、適切な管理に努めている。伊豆沼・内沼の環境保全への取組は、環境問題への意識の高まりもあり、多くの県民から注目され、高い評価を得ている。	S	県の環境保全対策の代表的な実践地として、沼の生態系保全等に関する研究成果を広く社会に還元している。また、環境教育施設としての役割も十分果たしている。	A

【指定管理者が行う自己評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営を行った。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営を行った。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われなかった。大いに改善努力が必要である。

【県が行う評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営が行われた。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営が行われた。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善努力が必要である。

7. 施設管理運営の課題等【指定管理者・施設所管課記入】

項目	指定管理者 【指定管理者記入】	県 【施設所管課記入】
管理運営の課題等	入館者が4,052人増で前年度の114%だったことは、自然環境の保全に対する県民の意識の高まりが感じられる。 令和6年度は、エネルギー削減対策として、全館照明のオールLED化の設計業務が予定されており、早期工事完了に向け自然保護課と協議を行い最大限の支援・協力をを行う。	建物設備の老朽化が目立ってきている中で、急がれるものから順次、修繕して行く。

別記1【③運營業務(ソフト事業等)の実施】

研 究 業 績

○原著論文(査読付学術雑誌)

第一著者

1. 嶋田哲郎・山田由美・杉野日斉・澤祐介・土方直哉・時田賢一・佐藤賢二・鈴木卓也・本多正樹・太齋彰浩・阿部拓三. 2023. 志津川湾におけるコクガンの行動圏と環境利用. 日本鳥学会誌 72:211-222.
2. 藤本泰文・福田亘佑. 2023. ゼニタナゴ *Acheilognathus typus* 再導入個体群の急激な減少: 愛好家等の採集圧による可能性. 魚類学雑誌. DOI: 10.11369/jji.22-015.

共著論文

1. 高橋佑亮・鈴木透・嶋田哲郎. 2023. ドローンの音に対するガンカモ類の反応. 日本鳥学会誌 72: 241-246.
2. F Zhao, K Mizuno, S Tabeta, H Hayami, Y Fujimoto, T Shimada. 2023. Survey of freshwater mussels using high-resolution acoustic imaging sonar and deep learning-based object detection in Lake Izunuma, Japan. *Aquatic Conservation: Marine and Freshwater Ecosystems*. <https://doi.org/10.1002/aqc.4040>
3. B Zhang, F Meng, Y Tung, E J Kim, D Zheng, J Yang, Y Han, Y Liu, S Zhu, J Li, Z Chen, X Wang, Z Yang, Y Zhang, C Lu, K Shan, C Jiao, F Wang, L Xue, D Zhang, Q Bai, A Jiang, M Zhang, T Mundkur, T Shimada, W Xu, D Gao, L Cao & A D Fox. 2023. Winter population estimates and distribution changes of two common East Asian dabbling duck species: current status and long-term (1990-2020) trends. *Wildfowl* 73: 210-237.
4. K Hirotsu, K Mizuno, S Tabeta, T Shimada, Y Fujimoto, A Nakao. 2023. Proposal and Empirical Evaluation of Relay Communication Methods for LPWA Real-time Sensing. *IEICE Technical Report; IEICE Tech. Rep. 122 (406)*, 481-486.

○学会発表・シンポジウム等

1. 嶋田哲郎・森 晃・田尻浩伸. 2023. 日本におけるマガンの個体数動向とその背景. 日本鳥学会2023年度大会, 石川.
2. Tetsuo Shimada・Akira Mori・Hironobu Tajiri. 2023. Population trends and the potential background for Greater White-fronted Geese in Japan. 20th Goose Specialist Group Meeting, Ulaanbaatar, Mongolia.

○委員会委員・非常勤講師など(主なもの)

(嶋田研究室長)

1. 希少野生動植物保存推進員(環境省)
2. 重要生態系監視地域モニタリング推進事業(ガンカモ類調査)検討委員(環境省)
3. 宮城県生物多様性地域戦略検討委員(宮城県)
4. 伊豆沼・内沼自然再生協議会委員(宮城県)
5. 栗原市環境審議会副会長(栗原市)
6. 栗原市栗駒山麓ジオパーク部会長合同会議会長、保護・保全部会長(栗原市)
7. 日本鳥学会副会長、評議員(日本鳥学会)

(藤本主任研究員)

1. 希少野生動植物保存推進員(環境省)
2. 宮城県希少野生動植物保護対策検討会委員(宮城県)
3. 宮城県自然環境保全審議会専門委員(宮城県)
4. 栗駒山麓ジオパーク推進協議会防災・教育部会委員(栗原市)
5. 遠野市山口集落伝統文化的景観保存調査委員(遠野市)
6. 旧品井沼ため池群自然再生推進委員(環境省)
7. 日本魚類学会自然保護委員(日本魚類学会)
8. 流域環境保全ネットワーク副理事
9. 宮城大学非常勤講師

別記2【④自主事業の実施】

① 自然体験講座の開催

自然保護思想の普及啓発活動の一環として、季節ごとのテーマを設定し、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を図りながら10回開催した。

◇令和5年度伊豆沼・内沼自然体験講座

回数	テーマ	開催日	参加者数
第1回	水辺の生き物採集と観察会	6月24日	5名
第2回	水辺の生き物採集と観察会	7月9日	18名
第3回	昆虫採集と標本作り	7月23日	18名
第4回	昆虫採集と標本作り	8月5日	18名
第5回	伊豆沼漁師体験	8月26日	15名
第6回	伊豆沼漁師体験	9月10日	18名
第7回	ガンの飛立ち観察会&コクガン観察会ツアー	11月11日	22名
第8回	ガンの飛立ち観察会&コクガン観察会ツアー	11月26日	20名
第9回	ガンの飛立ち観察会&コクガン観察会ツアー	12月17日	16名
第10回	ガンの飛立ち観察会&コクガン観察会ツアー	1月14日	24名
	合計		174名

※ 予算内訳 収入 財団 計 32万円
 支出 保険料、委託費 計 32万円
 (経費が少ない理由は、財団職員が講師を行っているため。)

② 第33回伊豆沼・内沼の自然フォトコンテストの開催

栗原・登米両市との共催事業となっており、写真展開催により伊豆沼・内沼の重要性和環境保全の大切さをアピールした。また、2月、3月に県サンクチュアリセンターで全作品の展示を行った。(出品者76名、内入選者20名)

<第32回写真展巡回展示箇所(入選作品のみ)>

登米市伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター	令和5年	5月	3日～	5月30日
登米市役所1階ロビー	令和5年	6月	1日～	6月29日
栗原市役所1階ロビー	令和5年	7月	3日～	7月27日
JRくりこま高原駅オアシスセンター	令和5年	8月	1日～	8月31日
宮城県庁1階ロビー	令和6年	1月	12日～	1月26日

※ 予算内訳 収入 栗原市40万 登米市30万 財団40万 計 110万円
 支出 旅費、通信、消耗品、印刷費、諸謝金(賞金等) 計 110万円

③ 伊豆沼・内沼クリーンキャンペーンの実施

美しい湖沼環境を保全するため、クリーンキャンペーン実行委員会と登米・栗原両市の共催により、第62回伊豆沼・内沼クリーンキャンペーンを実施した。

第62回 実施日：3月23日 参加者数：491名 ゴミの量：1020kg

<クリーンキャンペーン実行委員会>

栗原市若柳自然保護協会、伊豆沼漁業協同組合、内沼観光物産協議会、
 迫川上流土地改良区、伊豆沼土地改良区、穴山土地改良区、新田北部土地改良区、
 宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会、財団

※ 予算内訳 収入 財団 計 7万円
 支出 保険料 印刷費 計 7万円

④ バス・バスターズの活動(ブラックバス駆除ボランティア)

伊豆沼・内沼では、オオクチバスの影響によって沼から姿を消してしまった希少魚ゼニタナゴの復元を目指す「ゼニタナゴ復元プロジェクト」の一環として、ボランティアバス・バスターズの協力を得て、オオクチバスの駆除活動を2004年から行っている。

駆除作業：5月下旬～6月下旬 作業回数：4回 参加延べ人数：136名

⑤ 調査研究・普及啓発事業

伊豆沼・内沼の自然環境の保全管理のため、東京大学などの各種研究機関やシナイモツゴ郷の会をはじめ、各種団体との連携を密にし、調査研究並びに保全活動を行った。

また、伊豆沼・内沼研究報告17巻に11本の論文を掲載したほか、センターニュースやホームページなどを活用し情報の発信に努めた。入館者に対しては、展示品を活用した恒常的な解説に努めるとともに、出前講座をはじめ学校・各種団体等からの講演・講話要請等についても積極的に受入れし、対応した。

1 調査・検討会への参加状況

年	月	日	団 体 名
令和5年	4月	13日	環境省打合せ（オンライン）
	5月	12日	栗駒山麓ジオパーク推進協議会専門部会代表者合同会議
	5月	23日	栗駒山麓ジオパーク推進協議会総会
	6月	1日	宮城県自然保護課打合せ
	6月	3日	栗駒山麓ジオパーク シンポジウム
	6月	7日	宮城大学 学生調査
	6月	9日	ジオパーク学術研究等奨励事業研究助成審査会
	6月	16日	自然再生事務局会議
	7月	11日	宮城県自然保護課打合せ
	7月	21日	内水面水産資源被害対策関係 WEB 会議
	8月	3日	豊田合成東日本(株)打合せ
	8月	3日	山形大学（横山教授）調査（～4日）
	8月	3日	築館高等学校 水質調査
	8月	4日	自然再生協議会 現地視察
	8月	9日	NEXCO 事業打合せ
	8月	15日	国際ガン類専門家会議（モンゴル）（～25日）
	8月	17日	東京大学（多部田教授）WEB 会議
	8月	26日	タナゴサミット（WEB）
	8月	29日	東京大学（海津准教授）ヒシ刈りロボット（～9月2日）
	8月	30日	山形大学 学生調査
	9月	7日	栗原市環境審議会
	9月	14日	ラムサール条約登録湿地担当者研修会
	9月	26日	東京大学（多部田教授）調査（～27日）
	9月	27日	ジオパーク全国大会分科会打合せ
	10月	3日	環境省ヒアリング
	10月	5日	栗駒山麓ジオパーク第3回保全活動
	10月	6日	石巻専修大学打合せ
	10月	11日	酪農学園大学（小川准教授）打合せ
	10月	25日	伊豆沼・内沼ワイズニュース打合せ
	11月	1日	東北地方整備局（御所ダム視察）
	11月	7日	全国内水面関係会議（オンライン）
	11月	8日	全国自然再生協議会（オンライン）
	11月	14日	気象庁風力発電関係ヒアリング

	11月28日	酪農学園大学（小川准教授）調査（～1日）
	11月29日	（有）伊豆沼農産打合せ
	12月 8日	渡り性水鳥フライウェイ全国大会（～9日）
	12月14日	モニタリング1000ガンカモ検討会
	12月15日	モニタリング1000淡水魚会議
	12月21日	栗駒山麓ジオパーク管理運営計画策定委員会
	12月22日	東北大学（中島教授）打合せ
	12月27日	東北農政局打合せ
令和6年	1月10日	自然再生沈水植物部会（オンライン）
	1月17日	フライウェイ（EAAFP）プレゼン（オンライン）
	1月18日	山形大学（横山教授）調査
	1月23日	ワイズユース意見交換会
	1月23日	自然再生協議会事務局会議
	1月24日	生物多様性戦略会議（県庁）
	1月24日	栗駒山麓ジオパーク管理運営委員会
	1月30日	宮城県野生動植物調査会（オンライン）
	1月31日	栗原市環境審議会
	2月 1日	宮城県自然保護課会議（オンライン）
	2月 3日	自然再生協議会（登米市）
	2月 4日	ノーバスネット総会（東京）
	2月 6日	宮城県自然保護課打合せ
	2月 7日	栗駒山麓ジオパーク第3回保護・保全部会
	2月10日	日本白鳥の会研修会・総会（青森県）
	2月16日	東北地方ダム管理フォローアップ委員会（仙台市）
	3月 9日	八郎潟・小友沼視察（～11日）
	3月14日	栗原市環境審議会
	3月27日	栗駒山麓ジオパーク第4回保護・保全部会

2 共同研究及び研究援助

- (1) 環境省東北地方環境事務所（鳥インフルエンザ対策）
- (2) 岡山理科大学（ゼニタナゴに関する共同研究）
- (3) 北里大学（ゼニタナゴに関する共同研究）
- (4) 宮城大学（生物の画像分析に関する研究）
- (5) わいるどらいふ秋田（オオハクチョウの捕獲・追跡調査）
- (6) シナイモツゴ郷の会（ゼニタナゴの保全に関する研究）

3 出前講座の開催状況

開催日	団体名	テーマ	参加者数
6月14日	栗原市金成小中学校	沼の環境保全問題と自然再生の取り組みについて	45名
7月16日	蓬田環境保全隊	沼の生き物たちについて	30名
11月 7日	平筒沼 水・いきもの保全隊	沼の生きものたち	50名

4 企業による環境保全活動（社会貢献活動）

- (1) トヨタ自動車東日本株式会社

10月14日	15名
11月18日	13名
12月 2日	12名
- (2) 豊田合成東日本株式会社

10月22日	54名
--------	-----

※ 予算内訳 収入 財団
支出

計 350万円
計 334万円

☆ 自主事業収支

(単位：千円)

自主事業区分	収入	支出	収支
自然体験講座	320	320	0
フォトコンテスト	1,100	1,100	0
クリーンキャンペーン	70	70	0
調査研究・普及啓発	3,500	3,340	160
合計	4,990	4,830	160